

2022年3月期第2四半期決算短信でそろ

- 火曜日 - 16 11 月 2021

上場塗料会社の2022年3月期第2四半期決算の決算短信が出そろいました。このうち日本ペイントHDについては、決算期も会社としてのアクティビティも別格なので別途ご紹介するとして、それ以外の会社の決算内容についてまとめてみたものをご紹介します。

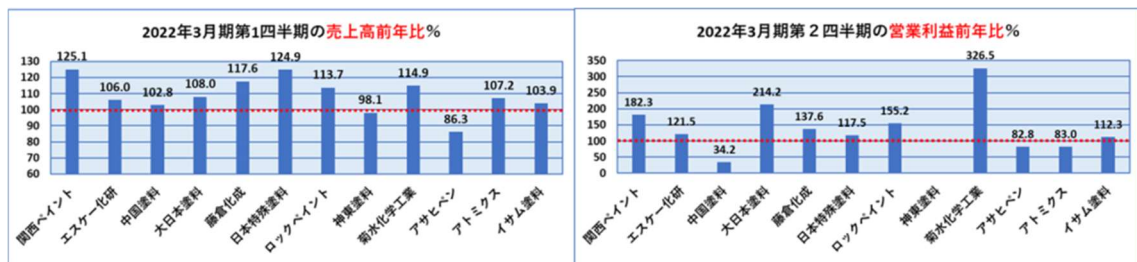
まずは、決算概要の一覧表をご覧ください。(内容は各社の決算短信からの引用です)

2022年3月期 第二四半期 決算単信内容 抜粋

会社名	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する純利益		セグメント情報など	2022年3月期 売上高計画	
	百万円	前年比%	百万円	前年比%	百万円	前年比%	百万円	前年比%		百万円	前年比%
関西ペイント	203,301	125.1	16,833	182.3	20,781	208.9	11,487	268.3	日本+4.2%、インド+56.5%、欧州+34.4%	410,000	112.4
エスケー化研	42,178	106.0	4,918	121.5	5,203	133.7	3,586	33.2	建築仕上げ材+9.2%、耐火断熱材-24.1	86,000	101.0
中国塗料	40,969	102.8	1,124	34.2	1,368	39.6	975	45.8	国内-3.5%、中国+62.8%、東南アジア+1.2%	83,000	100.7
大日本塗料	32,817	108.0	1,746	214.2	1,752	168.7	920	222.5	国内塗料+6.9%	66,700	105.6
藤倉化成	25,032	117.6	1,299	137.6	1,361	135.8	914	133.2	塗料+15.0%、コーティング+58.6%、樹脂-44.0%	52,500	106.1
日本特殊塗料	25,085	124.9	141	117.5	778	139.9	118	55.1	自動車関連製品+16.6%、塗料+42.6%	55,000	114.6
ロックペイント	13,151	113.7	1,182	155.2	1,424	137.1	1,002	132.9	車両用、建築用、工業用、家庭用で増収	24,000	102.7
神東塗料	9,577	98.1	-20	-	93	1076.2	-41	-	工業、インフラ、自動車分野増加 軌道用減少	19,000	94.1
菊水化学工業	10,669	114.9	223	326.5	280	170.4	171	355.1	単一セグメントであり記載者力	22,015	107.2
アサヒペン	7,669	86.3	594	82.8	655	86.5	514	126.9	巣ごもり需要の反動、天候不順で売上減少	15,000	94.7
アトミクス	5,148	107.2	166	83.0	178	84.0	187	134.5	インフラ補修減少だが、路面・床用・施工延長	11,100	99.8
イサム塗料	3,656	103.9	294	112.3	350	105.4	241	93.4	塗料事業+4.0%	7,000	97.8

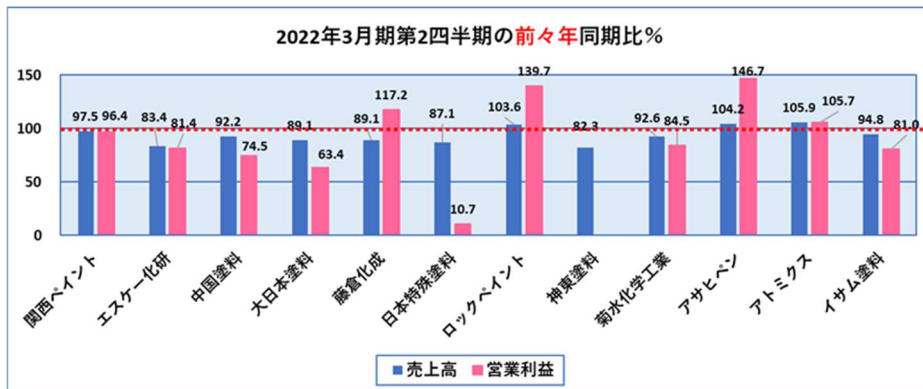
エスケー化研、藤倉化成、日本特殊塗料、神東塗料、アサヒペン、アトミクスの青字部分は手元計算の値であり、発表には前年比記載なし

おおまかに言って、売上高はほぼ前年比は増加、営業利益も同様にほぼ前年比は増加でしたが、営業利益に関しては大きなばらつきがあります。昨年巣ごもり需要の恩恵を受けたアサヒペンとアトミクスの2社はその反動の影響があり、昨年利益を大幅に増加させて中国塗料もその反動があったようです。下記のグラフをご覧ください。

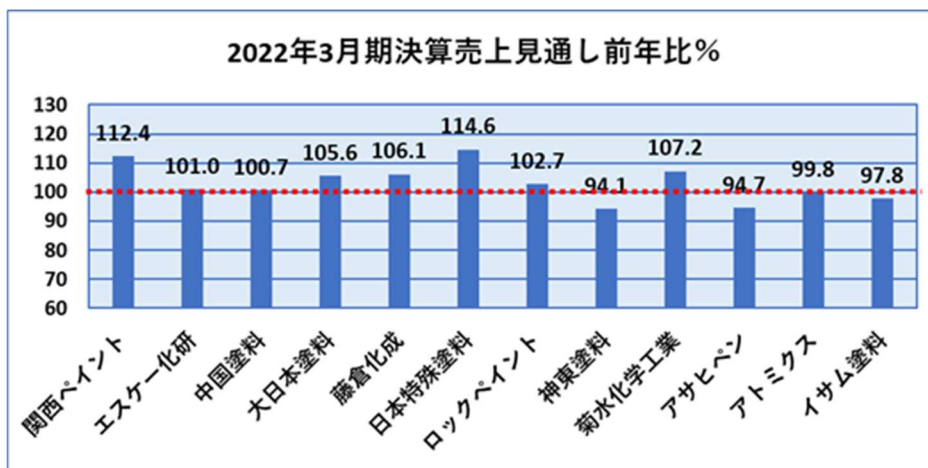


ところで昨年は言うまでもなく、コロナ禍による未曾有の事態に日本中が巻き込まれた年でした。今年はそのからの大幅な回復が期待されていましたが、半導体不足やコロナ禍による部品不足と言った不測の事態で基幹産業の一つである自動車の生産が、4-9月の半年集計で前年をさらに下回るという予測もしなかった事態に見舞われ、加えて原油価格に端を発した原材料価格高騰にも見舞われ、塗料業界としては大変苦しい状況にあったと思われませんが、上場会社のここまでを見る限りそこそ無難に乗り切ったかのように見えます。

しかしながら、これらの数値はあくまで前年比であり、前年が異常な年であったことを忘れてはいけません。そこで前々年比についても集計してみました。下のグラフをご覧ください。



このグラフを見るとまだコロナの傷跡は癒えたとは到底言えないことがわかります。売上で前々年を上回っているのは、ロックペイント、アサヒペン、アトミクスの3社しかありません。最後に2022年3月時点での売り上げ予測をご覧ください。



第2四半期終了時点と比べて、前年比の数値が小さくなっている会社がほとんどです。また第2四半期までの売上が年度末の売上見通しの50%に達している会社は、ロックペイント、神東塗料、アサヒペン、アトミクスの4社のみです。

このことは、上半期の売上高の前年比は昨年の上半期の大きな需要停滞の恩恵をうけているところが大きく、下半期に上半期以上の売り上げを達成しないといけない会社が多いということを示していると思われます。自動車産業における半導体や部品不足が一段落するとは言え、まだ厳しい日々が続くということになるのでしょうか？